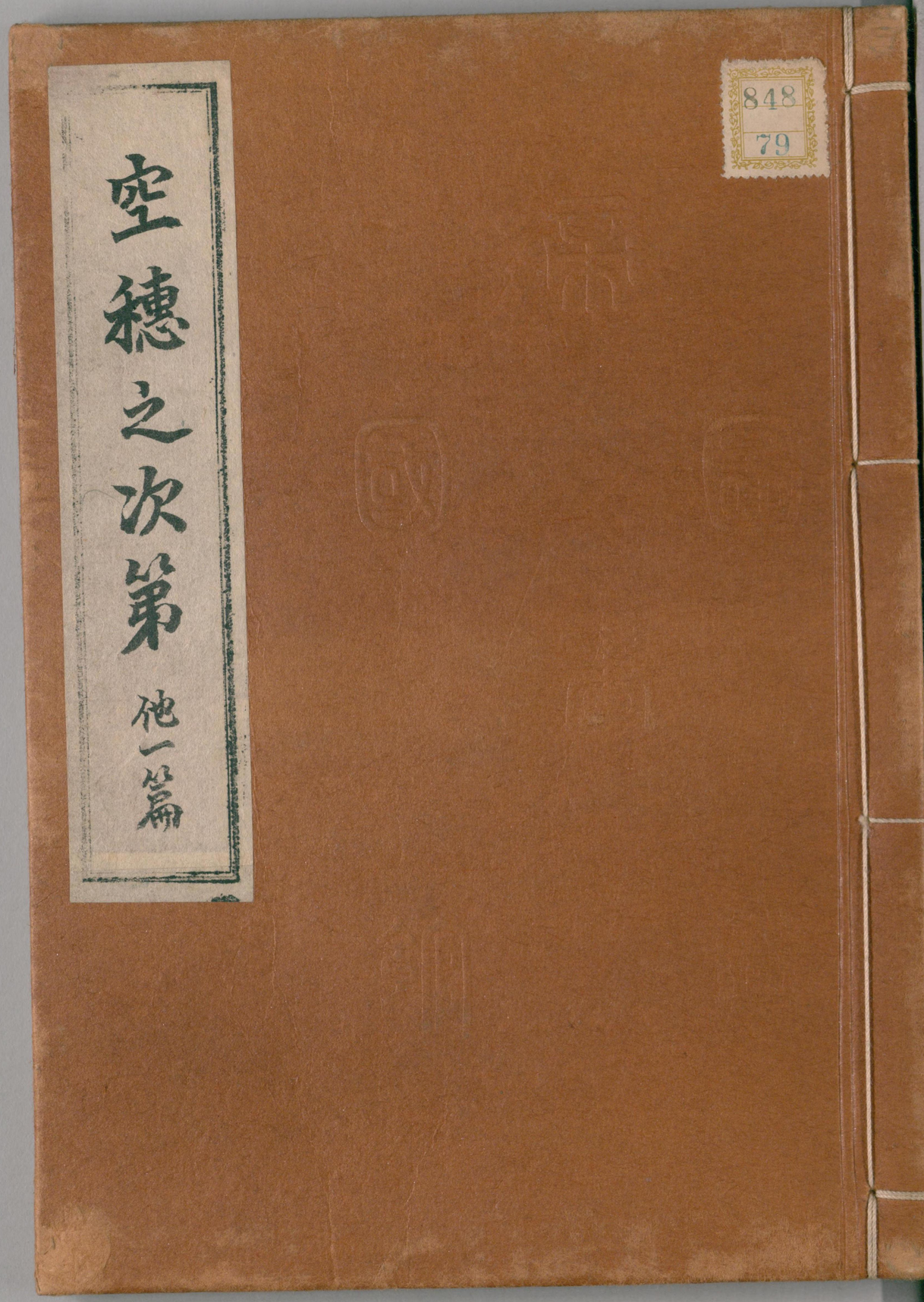


空穗之次第

他一篇

848
79

国立国会図書館　タイトル『空穂之次第』 請求記号 848-79

ガラス使用

空穂之次第

持言葉之記

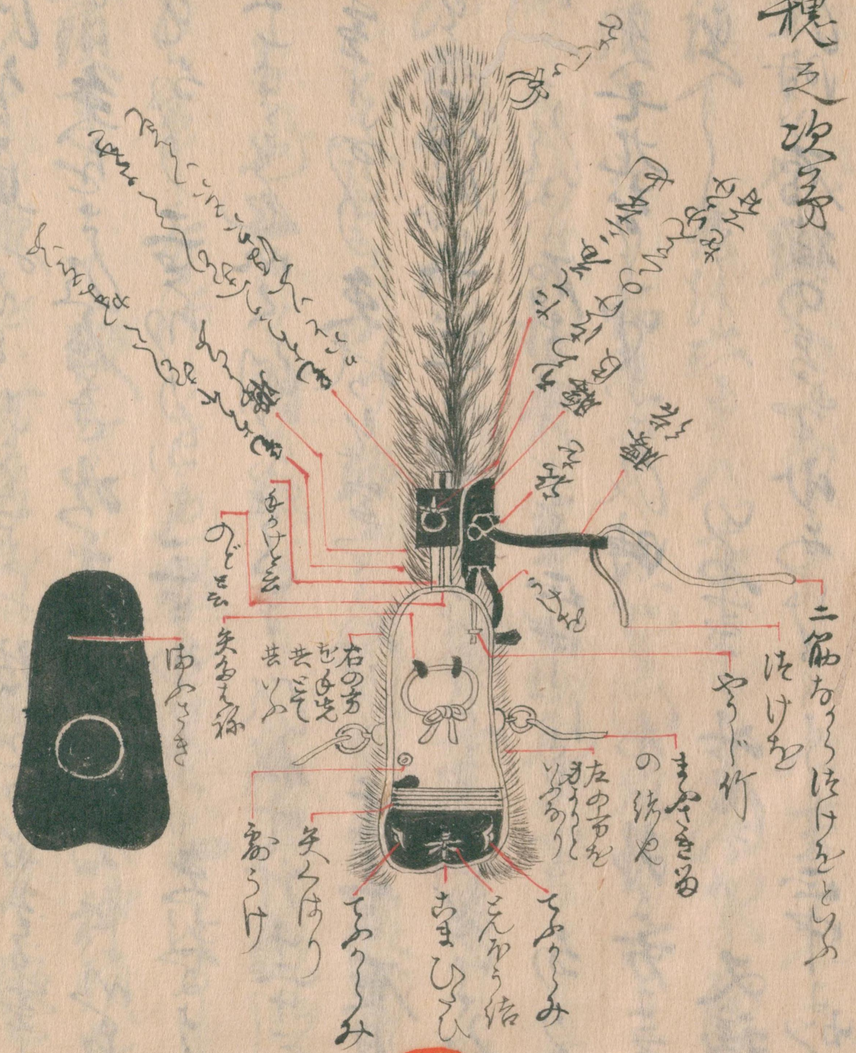
合二冊

848
79

国立国会図書館　タイトル『空穂之次第』 請求記号 848-79

ガラス使用

空穂之次第



今井後太郎氏寄贈本

国立国会図書館　タイトル『空穂之次第』　請求記号 848-79
ガラス使用

一うつゝ有る馬ぬたらむをつまれ皮をうまぬる事もあり

一鞍に矢をさゝぬ事を次第の事征矢をハ以ち下に
さしあり二とあり三とあるもあり矢数よりて
重てさしも也以くつゝとハさしまゝ但十計十二十三歳
の事あり矢ぬれ定らぬなり雲上ハ雁股を
さしも也雁股ハ二も三も身よりれたるをあまてさゝ也
鏑をさゝぬ事ハ雁まゝ乃ゝに正中にさしへきあり
征矢七九なと坐にさゝぬ時ハうつゝ有れ外ハ方に至て
さしへしさしへしといふ事北面あり又鏑ぬ
さゝぬ時ハ雁股の事を少あけくさして正中にかゝる

矢をさしも也鏑矢ハ一あらてハさゝぬ事也

一空穂りし矢ぬ六さゝぬ事あり うつゝ有ハ限らぬ
神頭きあり何矢にくも何事小者にも六ハさゝ
ましきあり む矢と事いむ也

一うつゝ有れ云ハ神頭さしへき事一さゝぬ事鞍を
さしそへ置きあり鞍さゝぬ神頭一手さし
ましき也二さし時も鞍ぬさしそへ置し鞍ぬ
四さし事有ましき也鞍をさせハ四もくるしと

一神頭一さして鞍をさしも也なとひ神頭をハ
さしとも鞍をハ可居あり鞍ぬまて鞍をさ

ぬ事 如斯(かくのごとく)きありようく心得(こころえ)べき事也

一鞆(とも)を必(かならず)手(て)ともなせども神頭(しんとう)六寸(ろくすん)ぬ鞆(とも)弦(つる)さゝぬ事也

一鞆を必ず手ともなせども神頭六寸ぬ鞆弦さゝぬ事也

一鞆と神頭(しんとう)とを対(つい)の鞆をいかにも多(おほく)こしらへおきて其(その)中(なか)より二(ふた)つ三(みつ)つ四(よつ)つ五(いつつ)と半(なか)ばを選(えら)べき也(なり)扨(さて)又(また)射(いる)時(とき)に神頭(しんとう)さへ同(おなじ)き也(なり)

一鞆と神頭とを対の鞆をいかにも多くこしらへおきて其中より二つ三つ四つ五つと半ばを選べき也扨又射る時に神頭さへ同じき也

一神頭(しんとう)ちいさく我(わが)手(て)ともちがひ小者(こもの)不(サヽ)等(ず)也(なり)扨(さて)鞆(とも)よく架(かけ)て鞆(とも)に入(いる)也(なり)但(ただし)為(ため)ありて強(つよき)時(とき)入(いる)もあり

一神頭ちいさく我手ともちがひ小者不等也扨鞆よく架て鞆に入る也但為ありて強き時入るもあり

不若(ふじゃく)を被(かぶ)ても暗(くら)がり紫(むらさき)天(てん)も入(いる)也(なり)

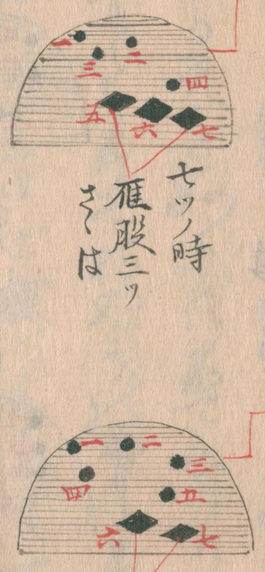
不若を被ても暗がり紫天も入る也

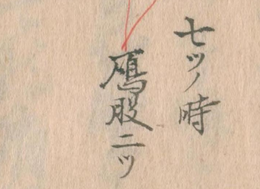
一四目(よつめ)をと鞆(とも)の上(うへ)よりさゝぬきをもとゝし扨(さて)数神頭(すしんとう)同(おなじ)き也(なり)又(また)小者中間(こものちうげん)のさゝ

一四目をと鞆の上よりさゝぬきをもとゝし扨数神頭同じき也又小者中間のさゝ

数(すう)矢(や)さゝぬる事(こと)

数矢さゝぬる事





七ツ半時ハ征矢三ツけんもり二ツもり股二ツ也

七ツ半時ハ征矢三ツけんもり二ツもり股二ツ也

七ツもり又征矢四ツもさゝぬるなり

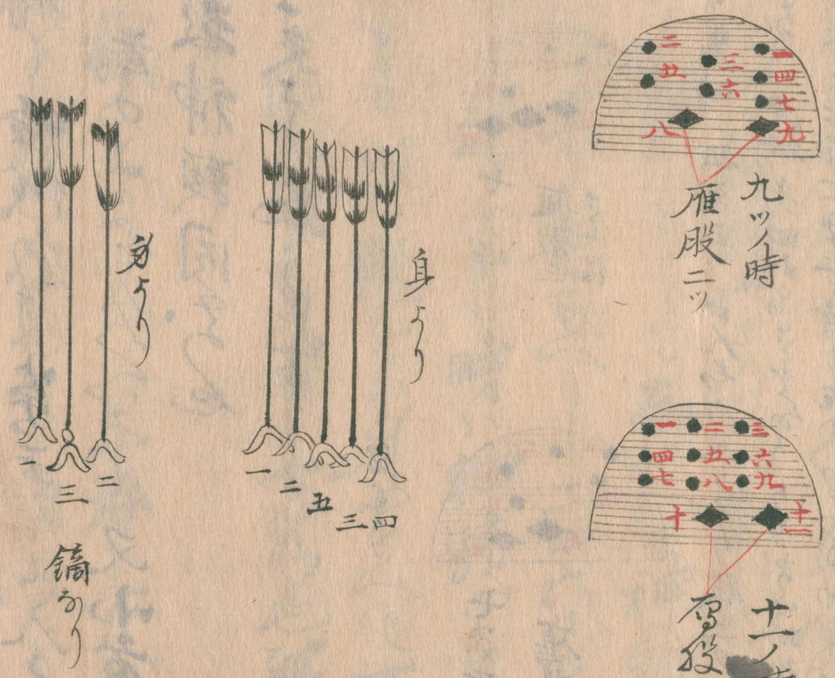
七ツもり又征矢四ツもさゝぬるなり

さゝぬく二ツ半七本一ツ時も右のごとくもちふべし

さゝぬく二ツ半七本一ツ時も右のごとくもちふべし

国立国会図書館　タイトル『空穂之次第』 請求記号 848-79

ガラス使用



一 鞆に鏑をさしやうしたりけれどもこれ二ツ
さ祢て少々廣鏑の二ツ此ゆへ入極にさして手上に
鏑は一ツ可差也何まも雁股の手先なりもあるを
あけてさしへきなり惣して鞆に鏑を記しの
さしもなり鏑を差時は矢数七九十一也鏑は世界一致
一 鞆にさしたる矢をぬくとは不云なり此ゆへ下云也
一 下人鞆はなくて弓一持ぬりは事弓を堅て弦をさし
なしく掘の中ゆるを右は手にて一持肩にかつきて
もて持馬より先に右の方に可持又一ツ此ゆへ持ちる也
一 ふしかをは一ほとは不云一腰なとといふべき也又一ツ二ツと云へし

一 うつほにはさしたる矢をぬきやうにつゝみてことに紀
やうにうつほをよくよく法事つきありかつかはらに紀
あさうつほは根本となるよくよくして心得なり
一 うつほに征人は寒にて振は出す矢出をも覚あり
ほこ紀の方向此吉へなりやりにおすへし
諸うとおかいて手まて紀よりて第紀
てやうく吉此うとしりにうつほさけて荘置
べきなり

以上拾七ヶ條

右此一巻者雖為當家代々秘傳可為
失念記之尤可秘事者也如件

永正二年
正月吉日

元信在判

国立国会図書館　タイトル『空穂之次第』　請求記号 848-79
ガラス使用

鎧将詞少々覚悟之事　今称将詞記

一かりと云ハ廉かりのるなりも千丸ハ或ハ鶯持なとゝ世もしくの名をあらはせるなりも

一野山のかりの鎧手とゝ云ハ袖のちいさ紀拘なり右の袖へぬひ法けたるものなり指りかく法草もなれ之今ゆとのこ手をはさゝぬなりむかしの鎧手と云ハ只をいりの左の袖をちいはくぬひたるなりさ給ふるをいりの紋あるへし

一かりも陽の縁ハ世しいかゝる矢をも給ふる例あり又右刀ハ乱をを給ふるゝ想して何

必ずしも不定結構を不定事なり

一 うつ詞ようの詞は云ふなるとも馬上のるゝうつは
ひかへうる時は射とかりよりはおしもちりのや
うに矢をとるなるを構をんひらきて必
云なり又弓ばしらばとかりなとさ紀なる物
を射るをもつ用みてと云なり射やうは見すを
及ぶちうてるやうなりひらきていて法
かえてに射くなる也物体よは可語うつもみは
ちを射出ぬなり

一 一云きれ物をもいぬ事とかへし其ゆゑは

一 ひきれ物をいきんのこりの廉必ゝなるも
返されるさきれにより おつまとより討るゝ一
云きといふは一番にとかる廉ぬ云なりおほ
とは二番めより通るを云なり

一 かりくらといふるは廉うりにかきりうりさん也
今日のかりくら時のかりくらなとく云なり
うまくらとんかりれ惣名也

一 詞は女鹿めると云へしめるといへはとてをうぬは云満
しきるゝ大をおうといふへして又廉と
云ましきなり廉ぬたみより れこして

国立国会図書館　タイトル『空穂之次第』　請求記号 848-79

ガラス使用

一 その紐はいつれの乃にても
かり緒也ハむかしきハ葦毛を用へし 但秋ハ
さう来も不苦 切紙 例式之とうへきか之等
一 鹿角其色ハ物乃人 木中にハ少なも 傾城のあ
しらうくにきり たてみよく 木のとも也
又はしめてはくりうるも よく木よりとも也
一 滿紀月乃廉とはいはさ申紀切と云次山の
みちなとふせて此中にて伸きまてある也と云
なりて紀めの志ちをとりたり海ぼき木として
申とかいふ名也

一 あさんさとなし山へ帰る紙一ひきをとり
しそ付用にてまうくもとしいふ事し
一 おやうのうをいのへし 又物かしれといふ
なり 同事くみりしうにまい絵時は鶏字十から
たうらの時も中に不及 二うしら三うしらの消え
いふ事きぬ
一 廉を紙を紀をいふと云なり ゆく法ま紙
射るさへ白毛引さへそれ地也
一 廉を射て矢よくへをするにハかりの紙あまた
ふそあるとなしくとなるなりける乃足を紙

しめ此とは言いと里此ゆ二者矢をも洗る
るて射つき所に矢をかへをして弓の足をいて
其事いくと不富中処に矢を射てやる上
いそのうめのをいしとの志りをハ世こともへきも
矢こうへをして弓の後いふ所に射平此きを
なり

一あゝ矢こうへをするの庫にかけるる
こと物にをぬるなり志りなる立ても矢こう
へ後すへし

一庫にあたりたる矢かけを射とりしたる時

其矢に血此洗ぬ事也矢口又射かけたる時
其何乃矢あたりたるとも志りたるし然る我
矢あたりたると論するの何も其時にそなる紙
をとりおして矢の根くきと箆との弓をぬこ
ひてみるにあたりたる矢に必ゝ紙に血又ハ
所によりて何ぬるなと洗くへし只ちりんえ
ぬるりゆうにして見るなる又矢此孫を
ぬきてみるにあたりしるにハ必ゝ此しかの
かつきに血つくなり

一庫に同ゆうに二段三段を矢を射付く

屈りて論をする時は矢こゝへをはめく志て
ゐ人へはめく射るに成へしてゝあの矢こゝ
へなり

一 まへおきの物を射ても矢こゝへをして弓の
足を出し矢こゝへは大追物の時もとく左へ
くひをつくりて おとれ すゝ足もあ国
と射にて たる時は論あらははめく矢こゝ
へしたる射手はめく射付たるよく あまへ
し弓をのこして打飯る事にかゝりし
但時の儀ゆゑりて打飯るゝあらは大追物も

とく弓手を射くはめてへ打妻手段射とも
弓手へ打へし又もとに弓手弓手一本にあまり
弓手すのをこなるへしめてきまして射とも
はなふと弓段をもとても不苦い

一 廉ってもあまし又両へをきの物ともあれ射
たる時はいかゝ弓段出しこともあ或はうけかん
せきゆく馬いたしたるは弓をはおさんとを
矢おこへをもへし

一 まへおきの物射る矢はなる何を不苦うり
両に征矢者ん志のもなとまて可射いとうへき

をあるに射ハ細紐を越さめて肩をぬきて射へ
事なり

一 流へおきの物紙引目四目志んとうにて射
時は肩をぬきて射へし

一 廉又まへおきの物通りする詠をハうつと云
さくりとしいぬる

一 いとゝ此物ハ矢所をきらひ云也そうひ
手弓手きまとても射へし但たむき(手向)矢所ハ
はあらず物ハしくハ手縄をはらひて弓手へも
免てまをあふて下射事下縄なり

一 射付くやると云事ハ荒流へ越さの物ハうさ
まて云也今とへ矢を射とかして射はなす
としいつまてやると云也なんしまりまさなん
ぬるて射る時乃事まへおきの物なと
四目引目志んとうにて射あてしる時射付
てやると云へうしん又大近物乃時中流しも
事なり

一 笛乃廉の矢所ハ事いかに矢さ紙をさしうえて
射るとも流れ中あてうひて矢越はなさん
は川也風し 矢所廉大なりと云た四寸ハ

国立国会図書館　タイトル『空穂之次第』　請求記号 848-79
ガラス使用

弓なりていなし弓なとにいたるのかみれん
川上よりちゝ中へよりて口の守乃弓にてうひ
て矢をそれさいなへるともそのるまゝきなり
一 大事の物を敵に射あてんとおもひ時に矢を
うしこしひきのこして間もきに物にはんへき
なりそれ目にて能るんんかめれ
一 大事の物を射るにはこ弓を射みさぬるに手謂
いたるまゝにやうて二の矢を法らんにゑるなり
弓あしをしていに至て法わるを也
一 あせ弓かけ弓を射る時にかゝかるまゝにて

射へきるの本儀なり征矢まんたりは臨時の儀也
不苦也
一 ふせ弓を射る事なる乃時は上紀かゝるてはあり
まして弓上にて射へし矢の事如しなる
弓を廻して後より射るなり又前にはたらをい
さけとそ後にはに尾をいさけと立也ふせ弓なる
ゝ紀をしるなるにちまゝまゝにしてふせへしとん
又はうまゝのきたるに弓あらはそれも弓あり
射やうにる紋ぬるひく廻して弓をふせ弓
射へしそんとりもよこ弓にはに射法しきに若下

馬して射るるあらは沓をぬくましきに但
水田なとの所にてぬくへきなり主人は供仕
ふる時は弓より知るまて射は沓をぬくへし
一 あせ弓なとを弓より拉りて射は左ゆかけを
とりへし惣して弓より知りて主のを射は
左ゆかけを立へし但拉によりて知るくなるに
そのまゝ射居きなり
一 かけ弓を射は横弓をそなり射て弓に寄るら
は手縄を結ひて一射弓に向て矢をなるまま
しきなり

一 むかひく弓は立たし弓なるあらはたり弓なるを
つかひて弓を思して射へし弓はやくあらん
一 ふせ弓かけ弓射時は弓上にそをまひしき
から立は時のことく紐をときて弓を右へわけし
て手綱は右へとく先弓手の紐を刀のこしまれ
うけて前へとりてうち立は時のおとくをさめて
又弓手乃弦の紐を左の手にて出て例式のコト
くをいうと小袖とのあらひへおし入て袖を又
刀乃こしまにうけて前へとりて是もうち立は
とくにをさめて射へしうちにうて射時を紐

をなさめて射つきや又はそきて紐をなさめて
き時は紐をかときて弓弦右にとり手縄に
取そへて弓をあらせてたるぬきて先弓手
の紐を袖ともに取とつよりて例式袖を越さ
むるおとく刀此こしつきにかけて前へとりしく
をさめて其後弓手のひかをもまいしきれとく
をさめて射し袖をさめやうは式の後にはいるを
いそく時め此をりなり
一 妙せ弓と云ふ雉と鶉と二なりてはふをゆるとは
いそれふせて射事と云ふ此二なりてはあまし

さるを能く可得るを
一 弓うてもうつらなてもえつまゆる時は目を清く
とも又目つけともいふなり志と弓ふい落しき調
めをつくとも又めつけとも云ふは野山にて地り
ある弓を云なり空飛鳥をは云ましたなり
一 妙せ鳥射へき時めとりをとり二なりひて五事
あらは去夏はめとりを射へし秋冬はをとりを射
屋きへめ此定まとも何めても立ちらは先それを
射へきなり
一 かり場或はかけ弓ふせ弓なりと射る時かりはこけ

一 人志りなどを手をさむしつゝ所に手ぬぐあふのけ
さ以前の手をさみふるまうりまゝれ方ぬらの
かゝへつゝ又りまゝをたおしふさまなり其所に
羽の方を腰に付して二の矢を持ち所に手ぬらしを
うへなしして矢をとりてそのまゝ付ひて射へきも

一 小鳥なとをさめて射るとも再番なとにても肩を
ぬきて射へきるに右俄なるに又弓を袖をさめ居し
てうさぬくるを為ましきるに小鳥うつらなとも
志んとう四目なとにて射へきに付やうれ時肩ぬ
そて射る時に弓を弦もふところへおし入て射へきも

一 主人又老人なと何鳥をも射ていまゝ雲鳥志れ
をは矢をもこゝろして矢に弓をへて持て下弦なり

一 木鳥射る法事の事鳥にむかひて弓弦よせて馬
手の手綱を持ひとくち手にみなして弓手へさう
まそ射へきに悪して木鳥を射る時に鳥をもあ
しまとぬきて紐袖を掴めて射屈きなりうるぬう
て射御し知る事なり

一 所鳥を射る水に居る鳥弦そのまゝ射へきとも又近
鳥てくうけ鳥に射へきとも射手れまゝそれも紐袖
を掴めしてもぬきてうふくまてもかるとあるまて

存知るすん昔より用さるとこそ志さいハ秘事也

一 矢開ハ用紙物乃ゟ五分一に志て二に雀なり志
をハ男をきゝく 隔れいふ事なりる也かの志ハ此ゟ
なるも

一 四目めくを式のみさみ物を射てハひきと射て
とゝえたるしたる時ハひゝのとゝえたるしてと云也

一 志んとうるて草麻尾物鳥うさ紀たぬき木葉の葉
れ紙風情のものを射てハひしとく射てと云也
たるしたる時ハ是もひきのとゝえたるしてと云なり

一 かゝらめてハ云ゝのと射とゝ又やふさめの的ハ射めて
ある時ひきこと云なりたるしたる時ハひきのとゝえ
して此云なり

一 うりまたるてハひやうふのと射てといふなり
てハひようすのとゝえたるしてといふ也

一 征矢きん志りるてハひやうしきと射てと云なり
けゆしある時ハ云やうきのとゝえたるしてと云なりハ
つまも物めりて詞もうれ然き事也

848
79

天保二辛卯

国立国会図書館　タイトル『空穂之次第』 請求記号 848-79

ガラス使用

848
79

国立国会図書館　タイトル『空穂之次第』 請求記号 848-79

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『空穂之次第』請求記号 848-79
ガラス使用